

家にいることでできることを考えよう

総合教育院 梁志鋭

皆さん、こんにちは。最近、なかなか外に出られず家で過ごす時間が増えていると思います。今回は、そんな皆さんに「臨界期」(りんかいき)という言葉を通して、充実した大学生活が送れるようなメッセージを届けたいと思います。

早速ですが、皆さんは英語が好きですか。「好き」と思ってくれるなら、英語科目の担当教員である私はとても嬉しく思いますが、中には英語が苦手だな、もっと英語ができればいいな、と思う人がいるかもしれません。

第二言語(母語の次に習得する言語)習得に関する研究では、言語学習には臨界期があると言われ、(諸説ありますが)だいたい少年期が終わるまでには第二言語学習を開始しないと母語話者(たとえば、英語のネイティブスピーカー)のようにその言語を使いこなせることができないという考えがあります。時期を過ぎてしまったら母語話者のように言語を使いこなすということができないといわれてしまうと、少し悲しくなりますよね。

しかし近年では、従来の考えとは異なり、臨界期がより成人に近い年齢である可能性が指摘されています。また、ネイティブスピーカーに近い習熟度まで達するには、何歳までに学習を始めないといけないのか、ではなく、どれほどコツコツと学習を続けられるか、に大いによるとも考えられています。

皆さんの中には、これまでに英語学習に十分な時間をかけていなかったり、あるいは、英語学習に対して苦手だなと思っていたりする人がいるかもしれませんが、「やってみよう」とか「続けてみよう」と思うのであれば、英語上級者になれるはずです!香港出身の私自身も、大学卒業までは、日本語を一言も話すことができませんでした。ですが、そこから毎日少しずつ地道に日本語に触れ学んでいった結果、気づいてみれば今は日本語を不自由なく使うことができ、このように日本に生活しています。「地道に」と書きましたが、私はもともと日本の漫画やドラマ、音楽が好きだったので、家で楽しみながらにそれらに触れていました。

外出自粛が続いている今、多くの方が家で過ごす時間が増えています。また、今日では、インターネットが普及し、オンラインでいろいろな情報が手に入ります。これを機に、自分が好きだと思うジャンルの本や映画、ドラマ、音楽などを、英語を通して触れてみませんか。